

経営学部

准教授 福山 文子



10分、それとも15分かな。

とにかく短い時間で、あっという間に読める本です。

でも、「フランスの政治を動かした」ともいわれるベストセラー。

とても小さくて、軽くて、カラフルな絵が描かれていて・・・。

ちょっと借りて、お昼休みに読んでみませんか？

この『茶色の朝』の物語の後には、解説が書かれています。

その一部を引用します。

『茶色の朝』の物語が、現代日本社会に生きる私たちにとっても、けっして無縁ではないことはすでに明らかでしょう。

強者の論理を振りかざし、外国人や女性や障害者への差別発言をくりかえす政治家が人気を博したり、－中略－権力による個人情報の一元的管理、盗聴、メディア規制など国民統制を可能にする法律がつぎつぎに成立したり、「国を守る」戦争のときには国民の人権が制限され、一定の犠牲者が出てもやむをえないとする法律が制定されたり・・・。

あなたの望む未来はどのような未来ですか。

そして、その未来を守るために私たちは何をする必要がありますのでしょうか。

『茶色の朝』は、優しい言葉で書かれた寓話です。

とても簡単に読めるけれど、大切なことに気づき、考えるきっかけになる本だと思います。良かったら、読んでみてください。

そして、複数のお友達と回し読みして(図書館の方、ゴメンナサイ)、『茶色の朝』を迎えないための手立てについて話し合ってもらいたいと思います。



フランク・パヴロフ;物語、ヴィンセント・ギャロ;絵(2003)
『茶色の朝』(藤本一勇訳)大月書店

生 田 分 館: J/953/P28

700816218

神 田 分 館: J/953/P28

701659914

